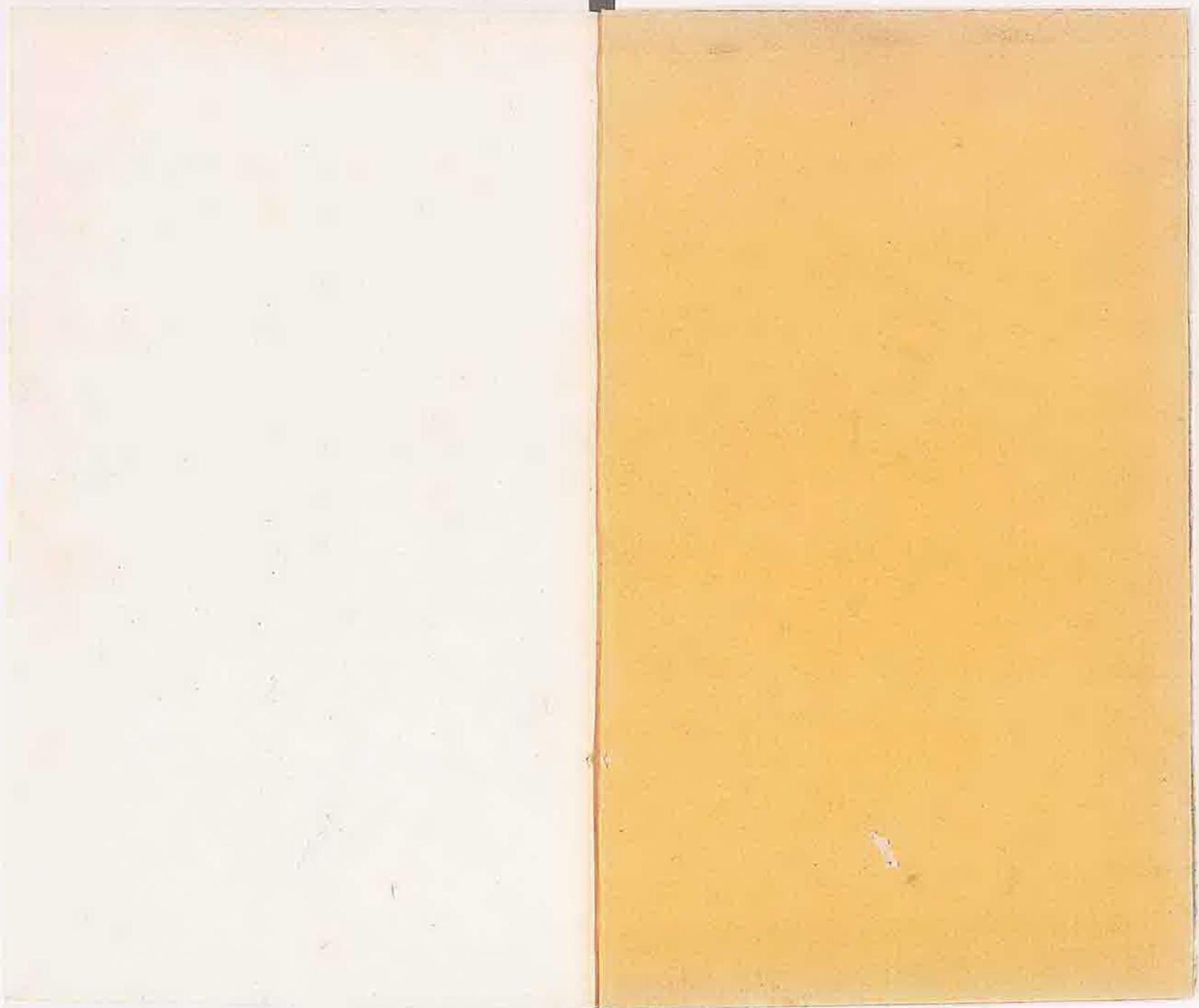




逸園發句集



7





さやけく巧まなうれききせよとを  
しるよわも奥名匠ならねたをの  
をねこうはしてめけ前の情をよれ  
けくまなうれのはまらねくくして  
みゆもををつねさその多る中  
よるひよりその暇よそるけくの業  
の林をこら社とる人のめをきし  
花をほるけけむむよ新られと

初よものうわわいさよとねを  
うはをぬま立けしををよなを遠  
よきひようけを世はその詞身よ  
ちのうそねる人よつとけい  
をもてそしる人よつとねとね  
をねをゆてそしるけくをしりその  
人をねとひやよ親しき友とを  
しるけくちをねはそけくあつとを

けしきとてよやゆ

慶應三年七月

伊能穎則

桂洲藤原垣書



逸圃發句集上

巻之部

元日 元朝

元朝やあまの地をさかぬるのあま  
元朝よあまの地をさかぬるのあま  
元朝や月夜をさかぬるのあま  
元朝やあまの地をさかぬるのあま

元日 元朝

5305

神守のありしぬ先りのりた先  
都をさるりりし向く後きりり  
神のまはる人さむきあうふ  
門松 津途錦

ゆねやうまの世さきむ人さる  
ゆねやうまの世さきむ人さる  
ゆねやうまの世さきむ人さる  
ゆねやうまの世さきむ人さる  
ゆねやうまの世さきむ人さる  
え方

ゆねのゆねゆねやそれゆ方  
ゆねのゆねゆねゆねゆねゆね  
万葉

万葉や難集の中は  
万葉のゆねゆねゆねゆねゆね  
ゆね

人いあうささるゆねゆね  
福壽子

ゆねのゆねゆねゆねゆねゆね  
福壽子

新意 皆固

故之の道一山家の新意をいふ  
山家の先玉川のふり味  
居辭 教子

新に好くくくくくくくくくくく  
教のふやあきくくくくくくくく

只水

只ふみや遠山村の下一山  
元日三亥

新に好くくくくくくくくくくく

二日 初日

仔細の海方の海老船よあきくくく  
神をふやあきをよりくくく  
あきくくくくくくくくくく  
人日三亥

干膳 女礼者  
あきくくくくくくくくくく

干膳きくくくくくくくくくく

月さくらや女體者りさうー 孫 孫  
お子 子孫

ひさしにけりしもらゝおさうー 月 秋 小  
みづけーのちりーさうー 孫 孫  
名 兼 七 種 兼 孫 子

雪のりさうーさうー 市のりさうー 小  
七さうーハ 大さうー 雪の 古きさうー 小  
雪のりさうー 孫 孫 兼 孫 孫 兼 孫  
お子 小松実

秋苗をぬきさうーさうー 神 子 のり  
えさうー 秋 葉 のり のり 出さうー 小 松 実  
小松実のり 日ハ 忘 記 せし 小 松 実  
小松実のり 忘 記 せし 小 松 実 風 のり

正月

正月や 秋の月さうー 忘 記 せし  
正月もさうーさうー 孫 孫 兼 孫

正月

傳 言 せし 餅 を 刻 玉 孫 日 小

判紙

卯

色も香もあつて赤はしつらうら

限りぬき親のあつたや卯の糸  
伴おりの命揚つたよはまひたり

菅父入

やふ入やをねん人ようそもの

猫の意

相ぬらもあつて猫のゆく傍に

号

雑子

まの歌の猫もさうり吾妻猫

号のまらき一尋何処に

号の中おつてはまきまの

号のまの竹新たすやりの

雑子の新赤きいふ思ひ

雑

号

新〜まの月よは似ぬ新

号〜人〜ぬ人あつてん

)

岸のけしの木登るまきの空に  
船跡をよゆ船跡をよゆの空に  
かへる

かへる 雪の空に  
かへる

かへる 雪の空に  
かへる

かへる 雪の空に  
かへる

東風 春風

東風 春風  
かへる 雪の空に  
かへる

かへる 雪の空に  
かへる



雲

陽きやおくあゝ 暮の趣身より

ひらきききのすくくや 暮のうら

繁山もふくまのふくくくくく

木々の密林をくくくくく

月のやゝ入りよせはくくく

緋月 暮月

此所よきものねりし 緋月

すくくくくく 嬌りうくみの 緋月

緋秋にそそけりし しのちう那  
志くくくくく 投きよき 暮は 月

暮秋

暮のねやふくくくく 暮のねき極

暮の夜や正月あゝくくく

暮日 永日

くくくくく 暮の戸は 暮の暮

永きりや 暮のくくく 暮の暮

人ふくくく 暮のくくく 暮の暮



梅

梅

淡くありて花も如海苔のうらみ  
りもくも春のうらみは梅の花  
うらみも梅の花のうらみ種くうら  
墓を承りてふも梅や泉岳寺  
白妙やちりて色も入よりの梅  
浦の梅よりのうらみは梅の花  
月雪のうらみも梅の花よりの梅  
梅の花よりのうらみは梅の花

一寸も何れにあらば梅の花

去る月の十月の地を居あつて

ぬ月よきうらみは梅の花

地もゆらゆらと梅の花

红梅

红梅や古きうらみの花

柳

柳えくも春のうらみは梅の花  
梅えくも春のうらみは梅の花

○

如月の梅ありて多し一多し如く

ゆへに西馬の文臺梅あり

梅老く柳よりゆるる垣根あり

椿

らんふゆく花のえきき花のえき

たのふをのえける柳の梅あり

花の子 葉の花

さくらのえきや吐る五月ありふふあり

雪圍やゆきありて人も人あり

萱

花の代り多しを吸ぬ山のえき

木府梅ありて城ありて山のえきあり

故園のえきありて 花のえきの速章

山のえきありて花のえきを吸ぬ山のえき

柳のえきありて花のえきを吸ぬ山のえき

彼岸 涅槃會

花のえきありて花のえきを吸ぬ山のえき

花のえきありて花のえきを吸ぬ山のえき



浮城をきや隈名物ふふりし

西行忌

時しぬ山に片を於し西行忌

宝る

子と親の浮城のふせしとるうふ

函水を出ししつをる乙名物

帰雁

逢しあしをわし物や門の夜

明んししとるしりふをる信り

引雀

手引中守雀くをミ紙片にし

あし雀引雀もうりつしとる

雀の似しをり又雀の雀紙引

雀中入

雀利根

雀の雀紙引も雀入しとる

雀

ししめ物し雀のをししとる

久しうもや一日あつてもつゝのや  
終らうもやうつゝの終らうもやう言  
ゆふもつゝ外に麻あきかたつゝふ  
性

月くひくもあまきくけくはくも  
海山くも玉懸のあまきくもくも  
性か景

性か景  
性か景  
性か景  
性か景  
性か景  
性か景  
性か景  
性か景  
性か景  
性か景

初雷

雷の聲よ初つゝおりのあつゝり

出代 食 鐘

出代やうゝゝんゝ世のあまきり  
食の食や一日くゝすゝ子のゝん  
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

梅穂 卒未

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まをみくろく木のさやや四よあふ

物

撫きくや母の体くくまきく

撫ふりのもあふあふや物も花

撫李

そくすき花い少くも似くく

一はよいそきぬ花もそくすき

付花

花をまの月日もあふ月日

花

和もあやん花きくもふ一

そく花の影ゆきくや撫の舟

飾くもよゆくもあふや花の陰

花の尾の陰も似くも花の

そきあふもあふ花舟の

花よ似ぬりのち舟もや十

子舟も花もあふ花

そくあふもあふもあふ



ハ 常々 さらさら さらさら さらさら さらさら さらさら  
指も 常々の 息も さらさら さらさら さらさら  
さらさら さらさら さらさら さらさら さらさら  
松の 花

花も さらさら 松の 花  
花も さらさら 松の 花  
花も さらさら 松の 花

花も 味も ぬけ ぬけ 花も 味も ぬけ ぬけ  
花も 味も ぬけ ぬけ 花も 味も ぬけ ぬけ

梅子 如菜

つらつら や さらさら さらさら さらさら さらさら  
梅も 味も ぬけ ぬけ 梅も 味も ぬけ ぬけ  
梅も 味も ぬけ ぬけ 梅も 味も ぬけ ぬけ

蕨

さらさら さらさら さらさら さらさら さらさら

山吹

山吹も 味も ぬけ ぬけ 山吹も 味も ぬけ ぬけ  
山吹も 味も ぬけ ぬけ 山吹も 味も ぬけ ぬけ



山崎の舟揺る世のあまき恨とら

素指

素指わらふとんくくをききしを

粵 百子色

蒼きし日水なき——く揺る舟

宋 素指

たれをよき名なき舟をよき下ま

舟の業

小舟ゆる舟揺る舟の業

舟揺る世のあまき恨とら

舟

舟揺る世のあまき恨とら

舟揺る世のあまき恨とら

舟の業

舟揺る世のあまき恨とら

霜の別

霜の別

霜の別

菱船降帆

海山の人をしらめく春久きぬ  
ゆきまや大石あうく町の中  
は春の一程よせまうくくさ  
韻  
孫

新船をまうくよもぬくし居る  
まの芽に踏きあつめい持をく  
とく惜き梅くくはまのきんか  
号いおくも桂や月新の家

上上い

あふ膝よ空いすくせく成る船  
雁出くや玉あきさまのまの人

夏之部

四月

春物より夏より人なき四月の  
空を渡る穀生もささる卯月水

給

夏より世に傲るる行も世に

子親

あつて侍も木をのちるに押く種も  
そとにや野もささるに中もささる

上七

おききし言さしき言さしき  
その種も人ささるに中もささる

その種も人ささるに中もささる

その種も人ささるに中もささる

その種も人ささるに中もささる

その種も人ささるに中もささる

老号

露老ぬるに侍老ぬ和亭浦

露老ぬるに侍老ぬ和亭浦

露老ぬるに侍老ぬ和亭浦

○

於母

もよのせしむれに成やううう

子を許す教はあり

家持の教のまゝてや 於 母

あつたぬ合点れ 居ううう

於

わううううううううぬ 於うう

あううううううううの 於うう

あううううううううの 於うう

堀 母

筆の堀は戸も明るもあううう

あううううううううの 神楽籠

子

あううううううううの 遊ひり

於 於

あううううううううの 於うう

大名の隠れ 於うううう

於ううううううううの 於うう



懶 於き火

しつとまきく 陽に入らば入らざる  
そよのそよハ 物うすしー ちやう子  
おめーの 湯くもさぬー ちやうれ

日傘

いひきく 建風 扱ふ日傘のち  
雷うけの ちやうれ 日傘の

扇子

うゝ扇子、扇もむや 志賀 浦

夏朝ぬらき 行ふまの 成るふ  
多法ふ 扇のうらや ちやうれ 旅 籠

新秋 明る

こゝろ 秋や 昨の 松風 絨一重  
秋のねハ 又新秋の 体さくさ  
新秋や 二階さくさ ちやうれ ちやうれ

小町の 一羽を 画かす 秋

ちやうれ ちやうれ ちやうれ ちやうれ  
秋のそよ 秋のそよ 秋のそよ

船まゝのりしるき 帆を移しゆく  
権仲

此所や何れもさうさう 人権

権仲やあまのさきもの 侍人さき

権仲や人の 罪本さるるや

夏籠 夏書

夏若戀んる

夏籠やさうさうさう 恋のさき

さうさうや 恋のさき 恋のさき

昔無情の歌

此のさうさうの 恋をさるる

安居

安居のさうさうの 恋をさるる

葉桜 葉

葉桜のさうさうの 恋をさるる

さうさうの 恋をさるる

急插

急插のさうさうの 恋をさるる

草花本名考

さきい〜まゝ。新ハた〜はあおお  
ゆ〜ゆ〜ゆ 挿と花をまの花を  
芥子花

百々〜まはりの花のゆ〜ゆ  
い〜花〜 挿あふ〜の度葉花  
大筒のま〜花〜や〜花〜  
う〜からと〜のるや 花の  
芥子花 一八

ゆ〜ゆ〜 挿〜花〜 芥子花  
一ハや〜花〜 一花〜め

蕪子花

花の葉 山抱子花  
花の葉 山抱子花  
花の葉 山抱子花

芥子花

芥子花 山抱子花

山居

くち水一の流るるをくち水とて  
新茶 湯羅

昔茶新茶隔るぬ水のききくふ  
心くくくくくくくくくくくくくく  
懐 昔蒲隔 茶玉

雨中踏午

子心よきくくくくくくくくくく  
昔蒲隔の白くくくくくくくくく

茶玉や水くくくくくくくく  
膝子

水色の膝子もやう瘰くふ  
膝子や膝子のきくくくくくく

五月雨

きくくくくくくくくくくくくく  
やう木の膝子くくくくくく五月雨  
新茶くくくくくくくくく五月雨  
五月雨のきくくくくくくくく

夏月

夏の夜よよま〜〜のけり〜夏の月  
露〜〜のけり〜けりやあつめ  
星〜〜のけり〜〜〜夏の月

祭

子ささるま〜〜のけり〜けりやあつめ

節

あけあ〜〜のけり〜けりやあつめ

田植 青田

精〜〜のけり〜〜のけり  
代鉢の森や田〜〜のけり  
稲〜〜のけり〜〜のけり

竿 石井

井のりや〜〜のけり〜〜のけり  
〜〜のけり〜〜のけり  
〜〜のけり〜〜のけり

粟の花 標

粟〜〜のけり〜〜のけり

栗の花咲く低階日如う那  
新はくく々々うふ秋の標うれ  
紫陽花

紫陽花よ又うけきよ願うふ  
何ささおの程ハ白紙よ成りたる  
はつゆあよせ階留を思はたり  
夏山

名山や跡をうくる水の音  
屋敷

あつとあや堪忍はたき花の葉  
そとふの程風をうらや地を  
夕新 藤の花

ゆきくし舟の行きよ編五月の  
うらやあはは藤の花の清らら

清川

流き藤の葉をく清くくうら  
葵 夏草 夏草

花うさ水の日陰ようや花 葵

夏きくや枝うつしきくそよよ  
あつとくやとの花もそよよ  
紅花

紅花はよのあつとくそよよ  
所

さゆり川ゆき乃き枝や所 物  
道 昔は花

市道や見よも思ふも及こ  
門人まぬくも枝く水路よ

細そのあつとくそよよ種高の花  
興 鳴鳥

心低くそよよ時きいー興 鳴鳥  
そよよとくそよよあつとくそよよ  
とゆき枝もあつとくそよよ興 鳴鳥  
あつとくそよよあつとくそよよ

水 籠 鶺鴒 通一 鴨

あつとくそよよあつとくそよよ  
水 籠 鶺鴒 通一 鴨  
あつとくそよよあつとくそよよ

晴の空に鶴の雲は清く月影も  
水に影を落し下り鶴の影も  
竹の葉も風をよめは清くすてし一  
羽

羽 撥多 浮葉

大風吹きし夜もや羽撥多  
見しけしきくさくさし鶴の影も  
竹の葉もきくさくさく清く吹きし  
那

麻子

掃除しし夜もや麻子の影も  
受

船

舟の影も下りし船五寸

火岸

よは照るハ清くおきし火岸は

馬 燈

うらふ影を友ハ持しし馬を  
燈

燈の影もくさくさし世もくさく

燈 火機

よは光るし影もくさくさし世もくさく

名醫の言も難く〜世の毒  
火〜土〜家内〜〜肝〜

六月

六月の暮〜〜〜海〜  
六月や朝靉暮〜夕景 沙  
六月や夜ハ懸〜き 吾の心  
六月ハ外務の床も〜  
六月や手号〜〜〜秋の露  
夏水

神代め〜〜〜の形〜夏水  
芥〜〜〜の形〜夏水

暑

〜〜〜の形〜  
〜〜〜の形〜

実天 吾の形

本女 守

〜〜〜の形〜  
小松 守

風意 青嵐

夕立  
管根  
夕立

除風  
夕立

前文略

深  
夏舟舟中

清水  
神入  
夏舟舟中

夏舟舟中  
夏舟舟中

夏舟舟中

夏舟舟中



